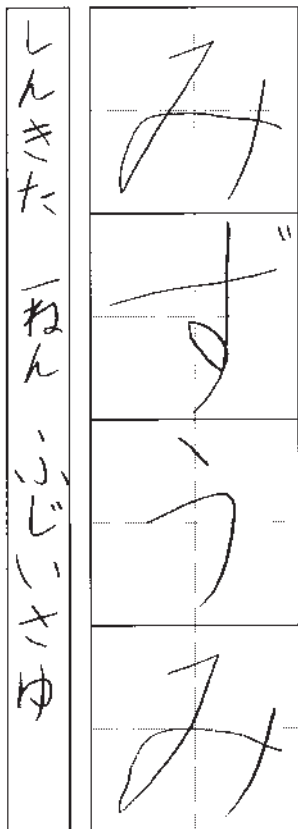


小 1 年

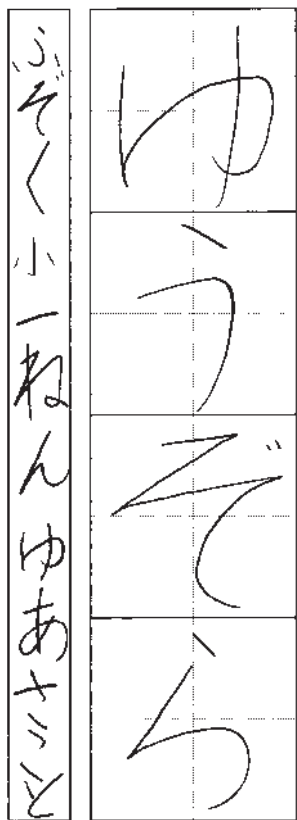


大 津 市 長 賞

藤 井 咲 結

のびやかなせんで、ぜんたいをうつくしくまとめました。四じすべて、なまえまで、おなじリズムでかけました。

小 1 年

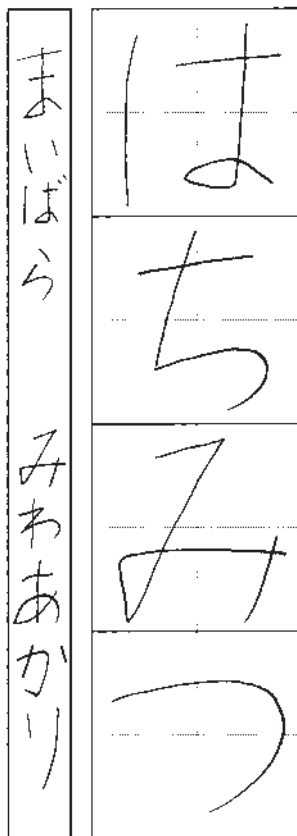


滋 賀 県 芸 術 文 化 祭 奨 励 賞

湯 浅 心 都

「ゆ」や「そ」などむずかしいじもみごとにかけています。「う」や「ら」のさいごのはらいもうつくしいです。

幼 稚 園

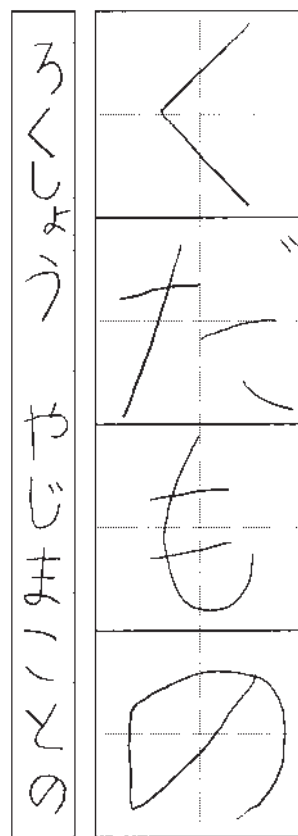


京 都 新 聞 賞

三 輪 紅 璃

かるいタッチで、きもちよくせんがひけています。じのかたちものびやかで、とてもきれいにかけました。

幼 稚 園

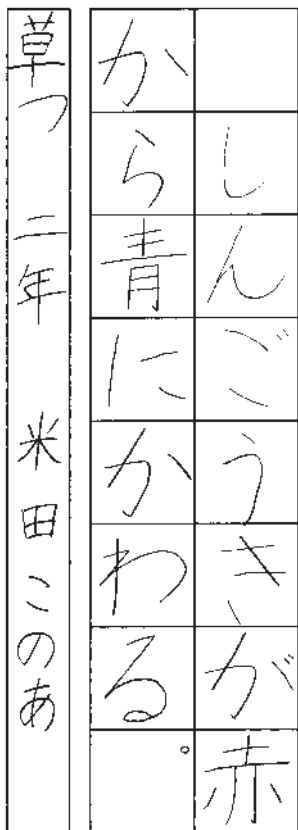


第 五 十 五 回 記 念 賞

矢 島 心 暖

いっかくいっかくをかんがえながら、せいかくにせんがひけています。かたちもうつくしくかけました。

小 2 年

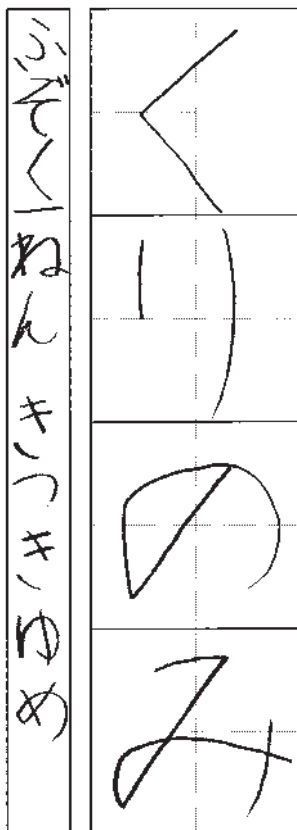


滋 賀 県 教 育 委 員 会 教 育 長 賞

米 田 好 杏

うつくしい線と、ていねいな書きぶりでまとめ上げました。大きくのびのびとしています。

小 1 年

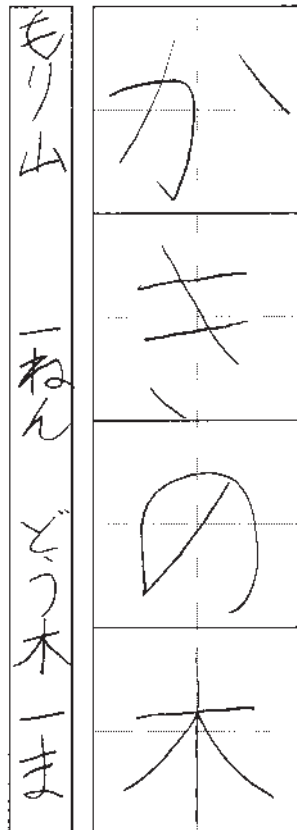


滋 賀 県 書 教 育 研 究 会 長 賞

吉 都 紀 ゆ め

げんきよくのびのびとかけています。それぞれのじのかたちもきれいにとのって、みごとです。

小 1 年

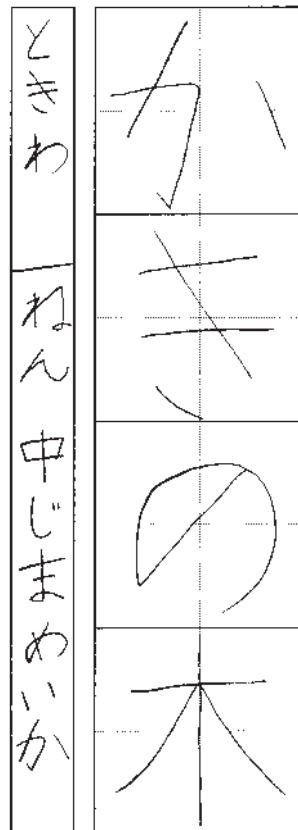


京 都 新 聞 賞

道 木 一 眞

ちからをいれすぎず、ゆったりとかけています。じをかくことがすきなかな、そんなかんじがしてきます。

小 1 年



第 五 十 五 回 記 念 賞

中 島 明 栞

一かくずついていねいに、さいごまでかけています。じのかたちもせいかくにかけました。

小 2 年

旭南 二年 し水さゆ	き	
		木
	ま	の
	っ	み
	赤	
	だ	ほ
	な	お
	す	

滋賀県書教育研究会会長賞

清水咲結

ひらがなとかん字の大きさのバランスがとれていて、しっかり書けています。

小 2 年

あひ 二年 おだ いちか	き	
	れ	え
	い	ん
	に	び
	け	つ
	ず	の
	る	先
	を	

滋賀県書教育研究会会長賞

織田唯愛

落ちつきのある字形と、大きく伸びやかな線で、さいごまでいねいに仕上げられました。

小 2 年

長ら 二年 林 花帆	画	
	用	海
	紙	に
	に	う
	書	か
	い	ぶ
	た	船
	を	

京都新聞賞

林花帆

むずかしい漢字をていねいに形よく書き、ひらがなもよく調和してりっぱな作品です。

小 2 年

旭北 二年 田中 音羽	か	
	ら	し
	青	ん
	に	ご
	か	う
	わ	き
	る	が
	赤	

第五十五回記念賞

田中音羽

一本一本の線がていねいに書かれていて、すっきりしています。

小 3 年

安曇 三年 青木陽真	ん	
	ぼ	夕
	が	や
	と	け
	び	空
	か	に
	う	赤
		と

第五十五回記念賞

青木陽真

鉛筆のタッチが、書きはじめてから名前までかわらず、ひらがなと漢字が一つになって良い作品です。

小 3 年

き生川 三年 エどう ゆ月	白	
	い	大
	ひ	空
	こ	に
	う	く
	き	っ
	雲	き
		り

大津市教育委員会教育長賞

工藤優月

のびやかでスッキリした線、大きな動きで字形も整いさわやかな作品です。

小 3 年

桐原 三年 橋本ひなた	葉	
	を	赤
	ふ	や
	ん	黄
	で	の
	歩	
	く	落
		ち

滋賀県知事賞

橋本ひなた

三年生としては画数の多い漢字も整って書けていて、大人顔まけといったところす。

小 2 年

せ田 二年 さとう ののか	の	
	出	み
	口	ん
	を	な
	目	で
	ざ	め
	す	い
		ろ

滋賀県書道協会賞

佐藤乃々迦

ひらがなの書きぶりがかん字にまけず、どうどうと書けていて、りっぱです。

小 3 年

守山	音	
三年	で	夜
	目	中
	が	に
	さ	
道木	め	大
なみ	た	き
		な

滋賀県書道協会賞

道木成美

漢字とひらがなのバランスが良い作品です。線の方向や間かくまでそろって書けています。

小 3 年

草津	も	
三年	み	石
	じ	山
	の	寺
	名	は
	所	有
	だ	名
		な

滋賀県書道教育研究会賞

本永航太郎

一字一字の止め、払いまでいねいに落ちついた線で書けた秀作です。

小 3 年

ふぞく	天	
三年	気	あ
	が	し
	心	た
	ぱ	は
	い	秋
	だ	祭
		リ

滋賀県書道教育研究会賞

中川莉杏

きびきびとした書きぶりに好感が持てます。特に漢字のバランスがよく上手に書けました。

小 3 年

信楽	て	
三年	話	自
	し	分
	合	の
	っ	町
	た	に
		つ
		い

京都新聞賞

岩永みのり

長い線もまよいなく引けて、手先だけでない動きが感じられます。のびのびとした作品です。

小 4 年

きり原	赤	
四年	や	秋
	黄	は
	に	木
	色	の
	づ	葉
	く	が

第五十五回記念賞

中川暖

むずかしい漢字がたくさん出てきていますが、字形が整っています。漢字とひらがなの大きさのバランスがすばらしい。

小 4 年

貴生川	下	
四年	で	外
	体	に
	を	出
	動	て
	か	太
	す	陽
		の

大津市教育委員会教育賞

西原惟吹

たくさんの文字を最後まで同じ調子で書き上げました。名前の位置や大きさが作品に合っています。

小 4 年

新南	高	
四年	校	投
	野	打
	球	に
	の	す
	し	ぐ
	合	れ
		た

滋賀県教育委員会教育賞

平井結月

一画一画の線がのびやかで美しいです。名前までいねいに書き上げています。

小 3 年

おお木の里東	く	
三年	歩	友
	き	だ
	ま	ち
	し	と
	た	な
		か
		よ

滋賀県書道協会賞

寺井結哉

中心をそろえて、ゆったりとさい後までがんばって書きました。

小 4 年

瀨田東小四年	い	
高橋由伊	流銀	
	れの	
	星絵	
	の	
	か具	
	くを	
		使

滋賀県書道協会賞

高橋由伊

のびやかで、気持ちのよい線が引けています。行の中心が通り、美しい字形です。

小 4 年

祇王四年	い	
夏山結楽	流銀	
	れの	
	星絵	
	の	
	か具	
	くを	
		使

滋賀県書道教育研究会賞

夏山結楽

すっきりとした線のでいねいに書けています。線と線の間かくがそろっていて、きれいです。

小 4 年

今津東四年	草	
早川咲衣	や温	
	花か	
	をい	
	育て	
	るし	
		が

滋賀県書道教育研究会賞

早川咲衣

横線が長く全体的にのびやかさを感じる作品です。ひらがなの字形がよく整っています。

小 4 年

城南四年	赤	
大森結芽	や秋	
	黄は	
	に木	
	色の	
	づ葉	
	くが	

京都新聞賞

大森結芽

鉛筆のこさがきれいで目を引きます。自然な書きぶりで堂々と書き上げたすばらしい作品です。

小 5 年

笠ぬい小学校五年	遠い空に一すじ	
森川優花	星たちが	
	ぶっかり合い重なり合い、河	
	のよう光っている。銀河。	

京都新聞賞

森川優花

ゆるやかな右上がり、明快なはねはらいで堂々とした作品になりました。

小 5 年

桐原五年	自らの仕事に一生をかけた	
大黒花	人の真実の物語を読むと、人	
	間の強さに改めて感動する。	

第五十五回記念賞

大黒花

右上がりの角度や筆圧が一貫していて大変美しいです。一字一字気持ちをこめていねいに書きました。

小 5 年

物部五年	スポーツにしる、音楽にし	
藤原茉優	る上手になるまでには、何	
	度もかべにつき当たるだらう。	

滋賀県教育委員会教育賞

藤原茉優

すっきりとしていながらきつくない線が書かれていて見えておだやかな気持ちになる作品です。

小 4 年

貴生川四年	高校野球のしくれた	
鎌倉虹香	のすく	
	れた	

滋賀県書道協会賞

鎌倉虹香

はね・はらいがすっきりとさわやかです。最後まで気持ちを切らさず、心をこめて書けています。

小 5 年

玉川 五年 談 恵佳	見	
	学	兄
	に	弟
	参	で
	加	町
	した	工場の

滋賀県書道協会賞

談 恵佳

のびやかな美しい線ですっきりと仕上げられています。一画一画に自信を感じる作品です。

小 5 年

玉川 五年 中川 果音	美	い	花	が	終	わ	っ	て	、	実	の		
	季	節	に	な	る	と	、	木	々	は	野	鳥	た
	ち	の	レ	ス	ト	ラ	ン	に	な	り	ま	す	

滋賀県書道協会賞

中川 果音

直線を基調に右上がりや少しおさえて書かれ、簡潔で見やすい作品に仕上がっています。

小 5 年

マミ東 五年 高木 ほのみ	昔	か	ら	伝	え	ら	れ	た	技	術	や	方	
	法	は	、	科	学	の	発	達	し	た	今	日	で
	も	意	外	に	合	理	的	な	も	の	だ		

滋賀県書道協会賞

高木 暖心

一本一本の線を着実にひき、字形をとらえようという気持ちがこちらにも伝わってくる作品です。

小 5 年

貴生川 五年 黄瀬 侑麗	赤	い	色	を	し	た	火	星	の	直	径	は	
	地	球	の	半	分	ほ	ど	で	、	そ	の	表	面
	に	は	ク	レ	ー	タ	ー	が	あ	り	ま	す	

滋賀県書道協会賞

黄瀬 侑麗

最後まで一貫した整った筆圧で、すっきりと書き上げました。落ち着いておだやかな作品です。

小 6 年

長等 六年 たき本 母加	青	い	空	、	ア	キ	ア	カ	ネ	の	群	れ	、
	秋	が	来	た	と	感	じ	る	時	、	高	く	
	さ	わ	や	か	な	風	、	そ	し	て	食	欲	

京都新聞賞

瀧本 母加

やわらかな線の引き方で、とてもあたたかい雰囲気作品に仕上がりました。

小 6 年

桐原東 六年 東山 愛	月	下	美	人	は	、	直	径	二	十	セ	ン
	十	以上	あ	る	真	っ	白	な	花	を	一	夜
	だけ	開	花	さ	せ	る	事	で	有	名	だ	

第五十五回 記念賞

東山 愛

全体に非常に引き締まった書き方で、あざやかに統一できた秀作です。

小 6 年

旭南 六年 森本 穂花	詩	の	美	し	さ	、	お	も	し	ろ	さ	を	
	深	く	味	わ	っ	た	り	人	に	伝	え	た	り
	す	る	た	め	に	朗	読	は	大	切	で	す	

大津市教育委員会教育賞

森本 穂花

硬筆の線の美しさがきわ立った、明快な書きぶりです。

小 6 年

八小 六年 北川 百々花	今	わ	れ	わ	れ	が	使	っ	て	い	る	
	学	校	教	室	授	業	放	送	運			
	動	道	徳	な	ど	は	漢	語	で	あ	る	

滋賀県知事賞

北川 百々花

大きく堂々とした書きぶり、全体に統一されたみごとな作品となりました。

中 1 年

行き帰り 心が晴れる
善は急げ バラ色の雲

八幡西 一年 浅田真那

滋賀県教育委員会教育長賞

浅田真那

すっきりとした線が印象的。楷書の字形の整え方を心得ています。横画の角度を完璧にマスターした優秀作です。

小 6 年

月下美人は、直径二十センチ以上ある真白な花を一夜だけ開花させる事で有名だ。

瀬田北小 六年 奥村愛莉

滋賀県書道協会賞

奥村愛莉

やや小さ目のマス目の中に、統一された雰囲気最後までよく書き上げています。

小 6 年

秋が来たと感じる時、高く青い空、アキアカネの群れ、すずしい風、そして食欲。

安曇 六年 仲宗根ゆうひ

滋賀県書道研究会賞

仲宗根 ゆうひ

やや小粒で、すこぶる整った美しい作品となり、たのもしかぎりです。

小 6 年

合 海 流 が ぶ つ か り
う 豊 富 な 漁 場
高島 六年 白井優菜

滋賀県書道研究会賞

白井優菜

ゆったりとした気持ちで一本一本の線が引けています。とても余裕を感じる作品です。

中 2 年

友情は喜びを三倍にし悲しみを半分にする(コラシ)
最も幸福な人はいつも行動している人である(アラシ)
自己を知ることとは真の進歩である(アンデルセン)

守山 二年 福原瑚涼

第五十五回 記念賞

福原瑚涼

三つの短文を紙面に体裁よく書けました。文字の中心が揃っており、行間の白が美しい作品となりました。

中 2 年

自信は成功の第一の秘訣である。(エマソン)
果敢と根気は人間最高の美德。(ギン)

米 二年 田島実乃里

滋賀県芸術文化祭奨励賞

田島実乃里

終始一貫して軽やかなタッチ。のびやかなペン運びがすばらしい。行書横書きで文字の大きさも配慮されています。

中 1 年

かけろがのぼると
ひばり舞いあがり
よく口のまわること
また太陽を口説いていると
かえる空をくらむか
なほに あんただつて
雨雲にむかへて
うたのオオヤシキリが
どのの このの
きりもなく語りかたではないか
妻だつて 負けぢやない
ひげかかえたと聞くヒ
トトトとのそきこが
風かほしたとみると
かやがやと見送る
木の芽は笑つて川は歌うし
まはく五月はおしゆべりだ
二藤道子 詩 歌かかはぬ
大谷中1 中津留 颯花

京都新聞賞

中津留 颯花

多字数を一貫したリズムで書きあげた集中力に感心しました。文字の整え方を理解しているのがよくわかります。

中 1 年

越前海岸は、水仙の群生地として知られ、
日本海を望む断崖で寒風を受けながら
咲く姿は、生命力にあふれています。

水口 一年 青山咲帆

第五十五回 記念賞

青山咲帆

行書のやわらかなタッチ、それにあわせてひらがなのしなやかな調子。実に見事な美しさでとても素晴らしいです。

琵琶湖の秋、た湖は、一枚の鏡のように冷たく澄んで
いる。紺青と、うには青く、瑠璃色と、うには濃く、冴えて
群青ともたの、だろつか。太陽の反射が湖面を走合、瞬に
青が移らるを、交えるのを、彼女は見えた。
芝木好子「群青の湖」より
聖徳三年 杉原蒼史

京都新聞賞

杉原蒼史

多字数かつ難度の高い漢字に取り組んだ意欲的な作品。文字の統一感や行末の処理などいくつかの工夫がうかがえます。

自信は成功の第一の秘訣である。(エーロン)
果敢と根気は人間最高の美德。(ゲーテ)
奥野 三年 奥野創大

第五十五回 記念賞

谷口 ひより

行書横書きを充分練習し自分のものになっています。漢字仮名の大きさへの気配りも感じられる統一感のある作品です。

栄光 英雄 学術 感動
完成 気球 原料 創造
奥立守山 三年 奥野創大

滋賀県知事賞

奥野創大

ペン運びが実に巧みである。スワップと楽に書いており最後まで伸びやかで一切破綻がない秀作です。

柳葉魚 浮寝鴨 湯豆腐
冬 銀河 名残の空 聖夜
考根西 二年 瀧波はるか

京都新聞賞

瀧波はるか

冬の季語を集めたオリジナリティー溢れる作。語句の美しさや行書の流動美が互いの良さを高めあっています。

人類は小さな地球の上で
眠り起きて動き
ときどき火星に
仲間を欲しがたりする
火星人は小さな地球の上で
何をしているか僕は知らない
(或はネリシ、キルシ、ハツシているか)
しときどき地球に
仲間を欲しがたりする
それはまたたくまにたど
万有引力とは
ひき合う孤独の力である
宇宙はひそんでいる
それ故みんなは求の合
宇宙はどんと膨らんでゆく
それ故みんなは不安である
二十億光年の孤独に
僕は思わずしゃみをした
谷川俊太郎の詩
伊吹高校1年
白木茉莉花

第五十五回 記念賞

白木茉莉花

きれいな線質で、漢字・ひらがな・カタカナのバランスも整えて書き上げています。

人間は自然の一部である。だから私たちの人生も自然の一部である。このことは私が幾度かの木や草や虫とともに自然の一部である。同じようなものを意味する。だが、私は今まで、このことを実感する。予考えることができなかった。それどころか、草や虫と私は根本的に違う。もともと思っていた。老年が、私には、それと私と自然の一部である。を捨てる。それ、必死、度々の木や草は私の目にまじり、それと私と自然の一部である。本日は私に予と近づいた。親しいものと思わされた。私に草のように揺れる。その瞬間に、私は、花のように美しく咲くのを、そう思う。そう思う。人間が自然の一部である。それは、本日に近づいた。東大津高校一年 渡部莉央

大津市教育委員会教育長賞

渡部莉央

行数の多い文章をリズム良く、見事に名前まで紙面にぴったりとおさめています。

眞の芸術は作品の背後に人間を求め、
天下を動かそうと思えば先ず自分から動は
幸福ほど人間の美しさに対する化粧品はない。
成章 高一年 木村 桜子

滋賀県芸術文化祭奨励賞

木村 桜子

縦長の字形を基調に、行の中心も良く通り、すっきりした作品に仕上がっています。

小さな歩を細かく繰り返す方が多くを学べる。
変化は突然ではなく小さな努力の積み重ねである。
生きることは、呼吸することではない。行動することだ。
長浜北高一年 北川 瑞希

滋賀県教育委員会教育長賞

北川 瑞希

整った楷書体で、筆圧も一定に、終始一貫した書きぶり、丁寧に書かれています。

滋賀県書教育研究会長賞

今昔、竹取の翁といふものありけり。
野山にまゝくそ竹を取りつゝ、もうづの
こゝに使ひけり。 長浜農高二年 木村胡葉

行書のリズムを良く練習し、大らかに気持ちよく書きました。

木村胡葉

滋賀県書教育研究会長賞

赤鬼魂 銀世界 万葉集
古城に月 早春賦 残雪
彦根東高一年 竹本羽那

楷書字形の特徴を良く理解し、しっかりと最後まで書き貫いています。

竹本羽那

滋賀県書教育研究会長賞

桐一葉目当りながら落ちにけり
野ざらしを心に風のしむ身かな
石部高一年 福林 愛理

良く手が動いた線で書かれ、自信に満ちた作品になりました。

福林愛理

滋賀県書教育研究会長賞

花はさかりに。月はくまなきそのみ見るものは。雨に
わかひて月をこひたれ。めで春の行く方知らぬも。
なほあはれに情ふかし。咲きぬべきほどの梢。散り
し。されたる庭など。そ見所おほけれ。 虎姫高校二年 片山沙耶

一貫性のあるゆったりしたリズムで書かれています。行書に合うひらがなも、自分のものにして書けています。

京都新聞賞 片山沙耶

滋賀県書道協会賞

集中力 夢中 精神統一
芸術性 友情 千載一遇
守山北高校 一年 宮本愛音

のびやかな美しい線で、力まず名前まで一貫して書けています。

宮本愛音

滋賀県書道協会賞

つれづれなるまゝに、日暮らし、硯にむかひて、心に
うづりゆくよ。なし事を、そはかたなく書き
まれば、あやしうこそものぐるほしけれ。
彦根東高一年 豊田一颯

行の中心に気を配りながら、字幅の変化に留意し、名前までしっかり書けています。

豊田一颯

滋賀県書教育研究会長賞

てのひらをたいように
りんどうのはながよく
河瀬 夏子裕史

整ったひらがなを堂々と書き上げています。線も字形も素晴らしいです。

夏子裕史

滋賀県書教育研究会長賞

秋空には一点の雲もなく澄みわたる
虫の音も衰えゆくゆく杖のわびしさ
膳所高校 一年 村井里帆

連綿線の入った行書文を行の中心を通しながら、急がず丁寧に書けています。

村井里帆

又方の光のどけき春の日にしづ心なく花のちるらん
 逢ひ見ての後の心に比ぶれば昔は物を思はざりけり
 忍ぶれど色に出にけりわが恋は物や思ふと人の間ふまで
 長 浜 北 高 一 年 居 関 杏 奈

楷書体で、基本の字形を忠実に、ゆつくりと丁寧に書き、行間もきれいに通っています。

信楽町にある美術館「ミュージアム」に秋分と春分の日
 前後にだけ現れる珍しい「黄金のトンネル」がある。雲の
 な、日没時、反対側から夕日が差し込めば、内壁が
 金色に輝く姿に出合える。 東大津 中井陽菜

安定した筆圧で字形も整っています。行間、余白も美しく、よく練習された文句なしの秀作です。

メロスは激怒した。必ずかの邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らして来た。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。
 太宰治「走れメロス」より 福永真千

一貫性のある伸びやかな書き振りで最後まで書き上げました。美しく整った字形は見事です。

日本国民は正当に選挙された国会の代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることをいさげ、これを決定し、この主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであり、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。日本国憲法前文より 伊吹高校 二年 友田蘭月

多字数をとっても丁寧に一字一字、心を入れて書き上げました。余白も美しく見事に紙面におさめています。

今三、四年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいう災いが続いて起った。その洛中のさびれ方はひとありではない。旧記によると、仙像や仏具を打ち碎り、その丹がふたり、金銀のめ酒がついたりした木を道ばたに積み重ねて、その料に売って、たとうりである。 文 守 渋谷樺伶

軽く伸びやかな線でリズム良く書き上げています。漢字・仮名ともに字形も整っています。

現代生活の基調をなすものに合理的な食生活があげられます。食へものにおおむね、単に食へるのみならず、積極的に健康を獲得するためにも合理的な食生活と、その心得をおかねばなりません。それには栄養上のバランスのとれた食品を摂取すること、これはますます求められます。同時に、いかにしてその栄養を調理などにより、破壊・破壊することなく摂取するの、この点も充分に知っておくべきです。行きあたりは、たうりの食生活は栄養のバランスをくずしやすく、破り、合理的な栄養摂取にそとわることになるので、充分注意したものです。 立命館書道高校二年 中村后佐

長文を紙面構成を考えうまく収めています。一字一字を楷書で丁寧に気持ちを入れて書き上げました。

道がつら折りになつて、いよいよ大城峰に近づいたと思つたら、両足が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで林麓から私を追つて来た。私は二十歳、高等学校の制服をかぶり、紺飛目の着物に袴をはき、学生かばんを肩にかけ、ついで、伊豆の踊子より 彦根 寛結心

漢字、平仮名ともに整った字形で、所々に連綿を入れた、一貫性のある書き振りは見事です。

人に出逢い、人を信じ、人にやぶれて、人を憎み、人を赦し、また人を知る。風に吹かれ泣いて笑ひ、生きる、この道、あなたの笑顔それは道標。
 彦根総合高校 三年 清水柁輝

整った楷書で三行を一貫し、漢字とひらがなのバランスも良く、生き生きとした線が響く秀作です。

